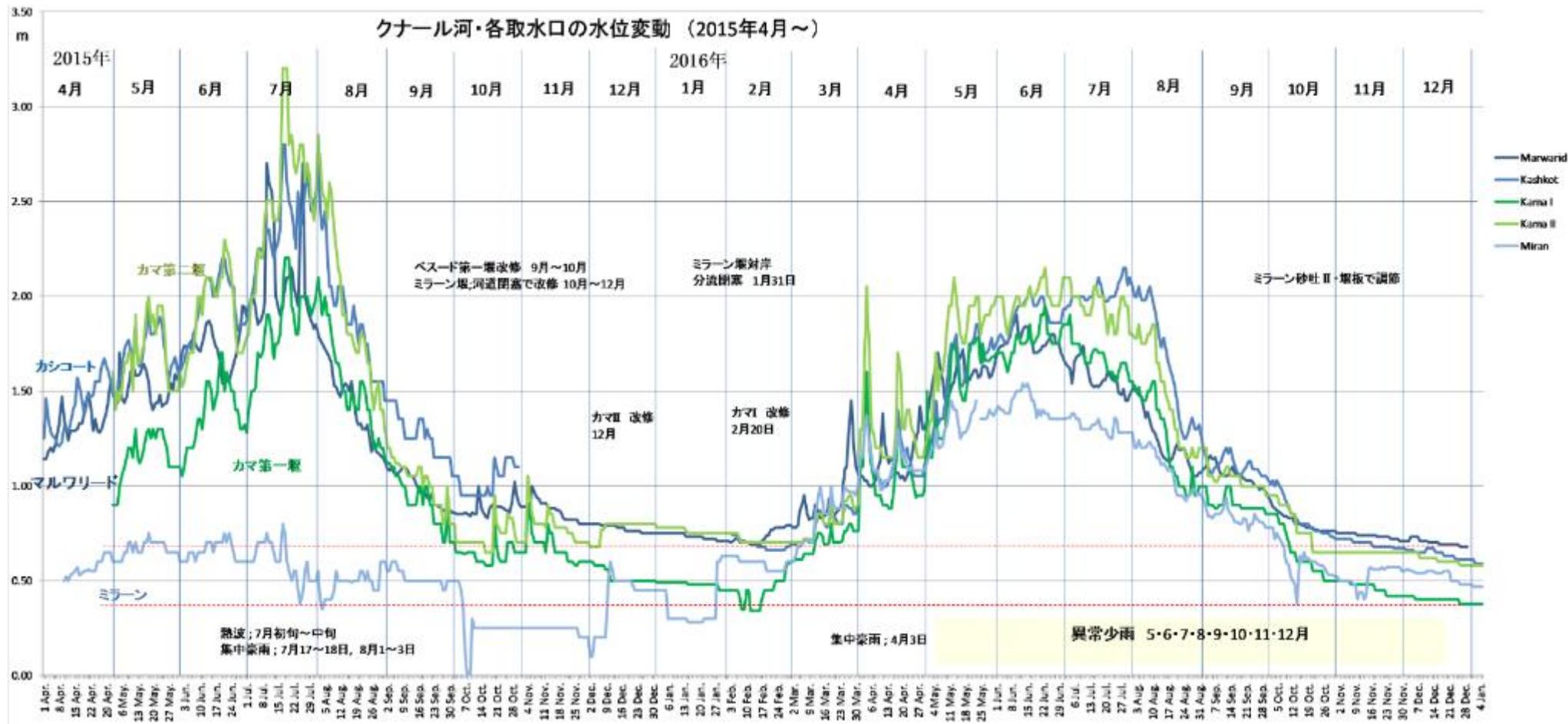
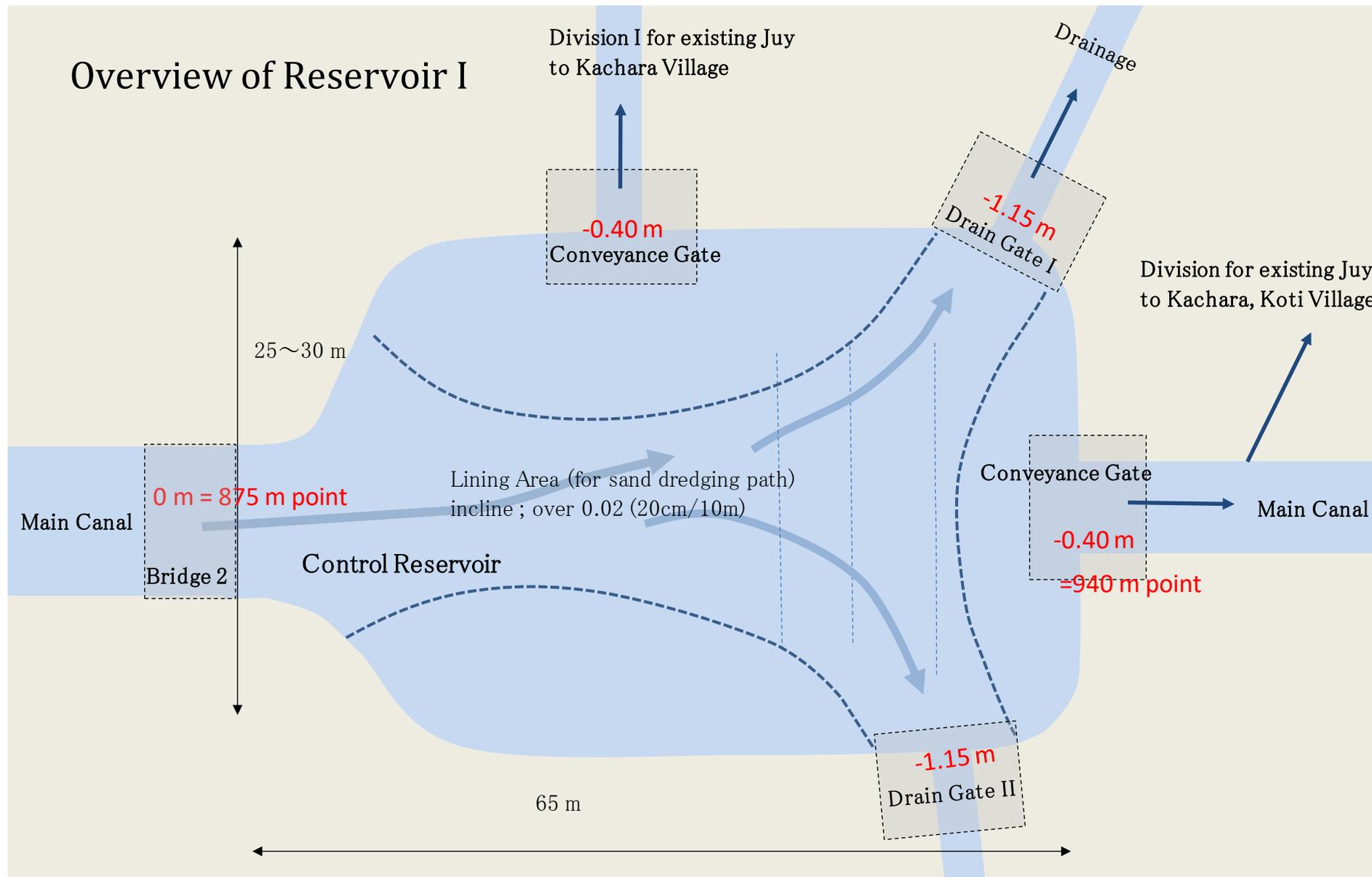




クナール河沿いの主なPMS取水堰の水位変化。水位は水門床からの水深。今冬は、現在まで改修・補修を行った堰がない。ミラーン堰は「部分可動堰」で救われている。スタイルが確立したPMSの取水門（幅 1.5m×4連）では、冬の水位 0.5mあれば十分で、一つの目安にはなる。（但し、カマ第二堰では灌漑面積が大きく、最低 0.6~0.7m、マルワリード堰は取水門の幅 1.1m×4連で、最低 0.65m必要。 ベスード第一堰の取水門は 1.6m×4連で 0.3mで可。）



マルワリードII用水路の沈砂池Iの最終案。これによって、カチャラ・コーティの二つの村の既存耕地への水量が確保され、洪水進入路を閉塞できる。また、約100ヘクタール前後の新たな開墾地が生まれる。排水門Iは既存の湿地帯へ、IIはクナール河へ排水される。Iが注ぐ既存湿地は、浅い浸透水の分流を作っていて、5km地点まで伸びており、タラーン村が灌漑に利用している。長い湿地は有機質と泥土が堆積していて、将来的に耕地として有望。土砂浚渫で大量送水ができない場合、排水路Iを送水路とし、排水路IIに一本化することができる。



造成中の沈砂池を下流側から見る。関連構造物は、橋（第2）、送水路2、排水路2で、コンクリート構造物のラッシュになっている。現在、建設班の殆どがここに集中している。2017年1月5日



同建設風景。排水門Ⅰが注ぐ排水路は、長さ約5kmも続く湿地で、肥沃な泥土と有機物が堆積している。やがて耕地となれば、浚渫のための大量排水ができなくなる。排水門Ⅱを設置して将来に備える。2017年1月5日



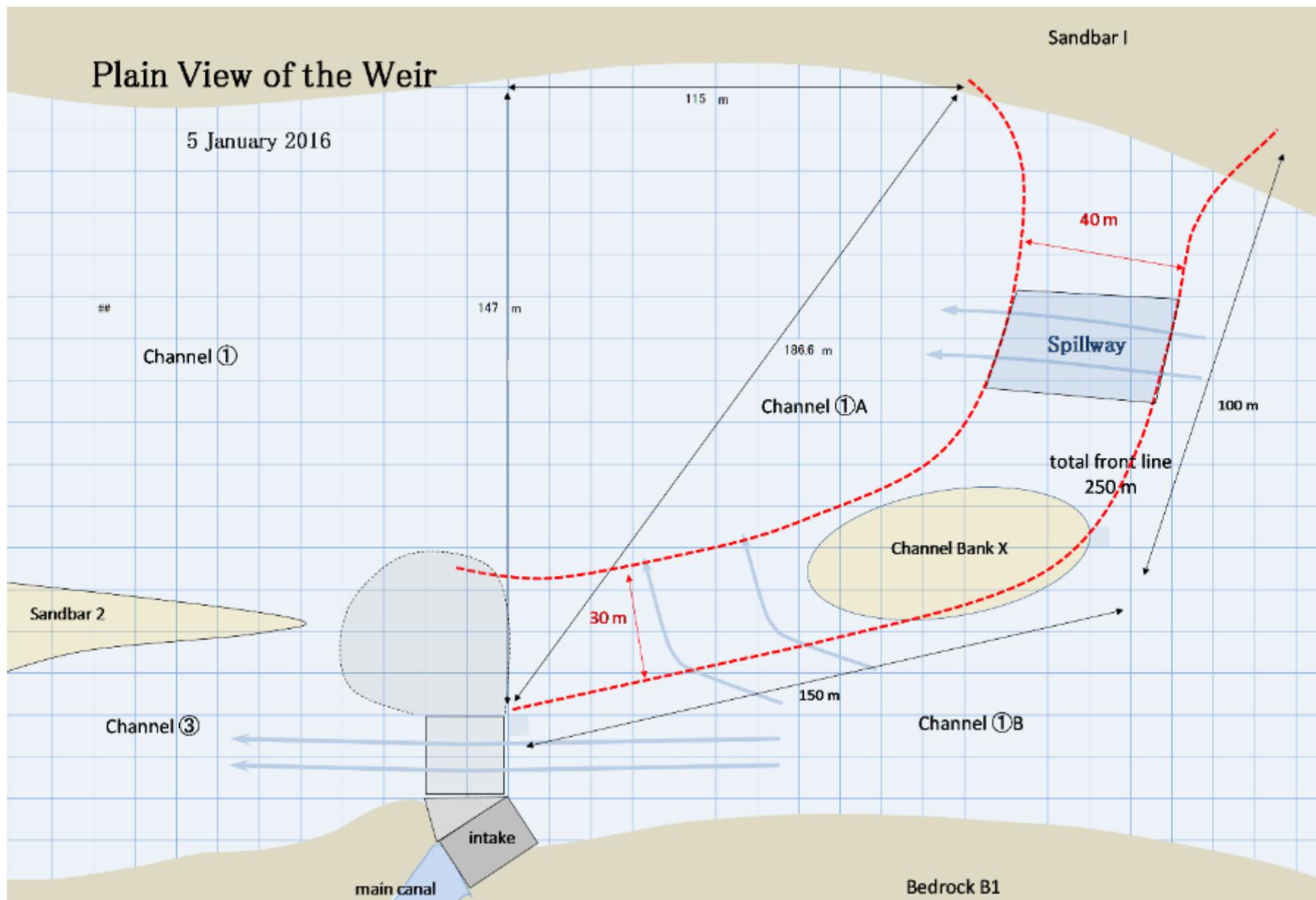
主幹水路は 935mのうち 800m以上の下段を仕上げ、来週から取水門側 100mの造成に入る。1 月中に送水試験の後、上段ふとん籠と植樹が開始される。  
2017年1月5日



仕事は綺麗で早い。2017年1月5日



堰平面の最終案（2017.01.05）。大きな洪水吐（舟通しに相当）を設けて、ひと夏の洪水期を観察。一年後に完成予定。現在、冬期に必要な水位は得られている。洪水吐の深さと幅は、最終的に来秋に決定。今冬は洪水吐の両側から石張りを進め、過剰な堰上げを避け、対岸の措置を充分に行う。



降り続いた雨で作業場がぬかるみ、対岸の石材輸送が途絶えているが、堰の工事は少しずつ進められている。取水門から 100m の主幹水路造成のライニングが開始され、水門と用水路がつながろうとしている。2017 年 1 月 5 日



B1 岩盤から堰が一望できる。2017年1月5日

